

くはないと思うのです。持ってきた時点でかなり印象に刻まれたのではないかと。

幸綱 そうですね。毎週持ってくるわけではなくて、二週間に一人か三週間に一人くらいずつ来るわけですから。

加古 そのとき、「おッ、この子は可愛いな」と思われたとか。

幸綱 (キツツンの朋子さんに向かって) 最初はどうかだったかねえ。うーん、よく覚えてないな。夏服だったか冬服だったかも覚えてないなあ。

大野 朋子さん、何年生のときですか。

朋子 ハハハ。忘れちゃった。

幸綱 三年くらいだよ。

黒岩 先生とは、なにせ十六歳、違うわけだから。

▽「友だちはみんな結婚に反対」と朋子さん

加古 先生はそれまでいろいろな女性と会ってこられたでしょうが…。

幸綱 そりゃ、跡見女子大で教えていますから(笑)。

加古 つまり、この人と結婚したいという決め手がないとまともじゃなかったと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

幸綱 みんなは、どうだ？

黒岩 それが、今日のメンバーは結婚してない人が多いんです(笑)。

幸綱 まあ、巡り合わせだよ。特にどうってことはないと思うよ、何が決め手だとかは。

黒岩 由幾先生はともかくとして、畑家の方ではもしかしたら、年齢が離れた先生とまだ学生の朋子さんが結婚するというので反対はなかったですか。まだ早いんじゃないかと。

幸綱 それは知らないなあ。

高山 それはともかく、世間的にかなり年の差があるでしょう。それに相手が学生だし。犯罪的だとか、そんなことを仲間内だったら言いそうどころがあるが、そういうことはなかったですか(笑)。

大野 今とは時代が違うから。

高山 今は年齢差があっても平気だけど、昔は気にしたりしたのは。適齢期みたいなことも言われたし。

幸綱 そんなことはないよ。年齢の差だつて、このくらいなら珍しくないよ。俺が三十七歳というのは当時としてはちよつと遅かったけど。三十代で結婚する男も当時

でもけっこういたよ。

朋子 数が違つてます！ 十五、違うだけ。私は一浪しているから、卒業して二十四歳です。

大野 朋子さんの側の結婚の決め手は何だったのでしょうか。

朋子 別にないわね。友だちはみんな反対しましたよ。

黒岩 まあ、ねえ。かなりオジさんなわけですから(笑)。

朋子 友だちはみんな日本文学専攻だから、「あなた、あんなどころに嫁くのね。大変だから絶対やめなさい」って、ずいぶん言われました。それも親友が言うんですもの。

大野 日本文学を専攻している人がどうして反対するんですか。

黒岩 代々続いている家だから、とか。

幸綱 当時は短歌なんて人気じゃなかった。

大野 朋子さんはどう反論されたんですか。

朋子 「エッ、何がたいへんなんだろう」って思った。周りみんな反対しました。でも、私はみんなが何を言っているのか、よくわからなかった。

大野 朋子さんはそういう点、おおらかだから。